

2 昭和18年災害

この災害による被害は、明治以降最大規模で、特に人的被害に関しては、石見地方を中心に死者

412名に達するなど未曾有の被害状況であった。

この災害は県下一円を襲い、連続雨量は平均して300mmを超え、浜田市では最大風速25.7mを記録するなど大暴風雨災害となった。『島根県非常災害概況書』はこの災害について、「9月19日、20日の両日にわたり県下一円を襲った災害は甚大な被害を出し、本県災害史上かつて例を見ないところである。今回の災害の大原因は降雨量の甚大であったことである。僅か2日間の最高雨量は那賀郡波佐村において実に585mmに達し明治初年以来最高のものである。この豪雨は一挙に流水となり随所に山崩れを生じ、岩石、砂礫、泥土、木竹を流し、奥部は洪水というよりもむしろ山津波の性質のものであった。」としている。

ことから、救援隊は松江市から浜田市まで県船「八雲丸」で医薬品や救援物資を運んだ。戦時中にもかかわらず救援隊には軍隊も出動し、浜田市の西部三部隊のほか、広島第五師団の工兵隊が食料や毛布をもって益田市、浜田市に來援した。また、海軍も呉から駆逐艦「呉竹」と「若竹」が米やパン、毛布を積んで益田市を慰問し、被災者に贈った。その後まもなく山口、広島、岡山の各県から勤労奉仕隊の幟をかかげた学生らの団体が被災地に入り、復旧作業に当たったと当時の新聞は報じている。

県では21日、県庁に救援本部を設けたが、山陰本線が不通のうえ国道が各地で寸断されていた

全県で死者412名、田畑の被害6,800haを含む総被害額は2億6千万円に達した。

翌年の昭和19年（1944）9月にも石見部を中心に連続雨量268mmを記録する豪雨災害が発生し、総被害額は9,355万7千円に及んだ。

降水量の最大値

(日界：9時)

観測地	連続雨量		連続日雨量	
	日	雨量 (mm)	日	雨量 (mm)
松江	18~20	302.0	20	209.7
大田	18~20	365.6	20	168.0
市山	18~20	419.3	19	210.0
波佐	18~20	585.7	20	289.7
浜田	18~20	343.3	20	231.3
日原	18~20	419.5	19	234.0
益田	18~20	336.1	19	180.4
六日市	18~20	440.0	19	277.0

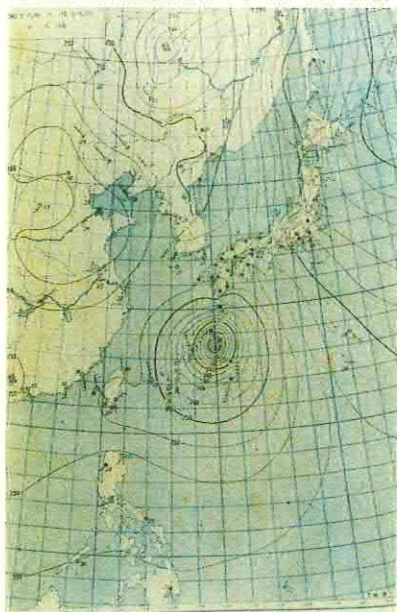
出典：「しまねの砂防」

総被害額

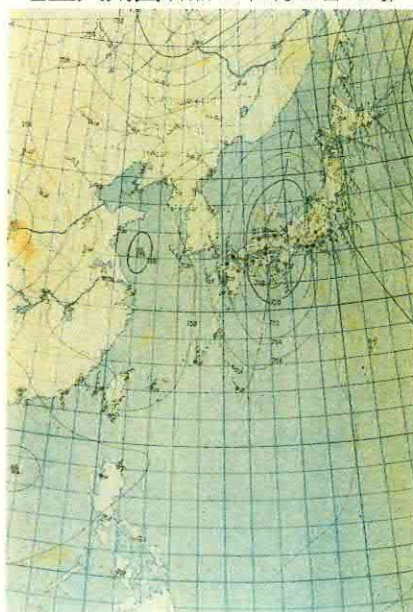
名称	被害額 (円)	比率 (%)
土木関係	66,097,967	24.63
耕地関係	74,280,405	27.68
農産関係	26,986,133	10.06
畜産関係	4,287,372	1.60
林産関係	16,788,119	6.26
水産関係	711,681	0.27
副業関係	2,291,763	0.85
農業会関係	3,064,348	1.14
工場、鉱山関係	6,091,039	2.27
その他	67,752,617	25.25
計	268,351,444	100.00

出典：「しまねの砂防」

地上天気図 (昭和18年9月19日18時)



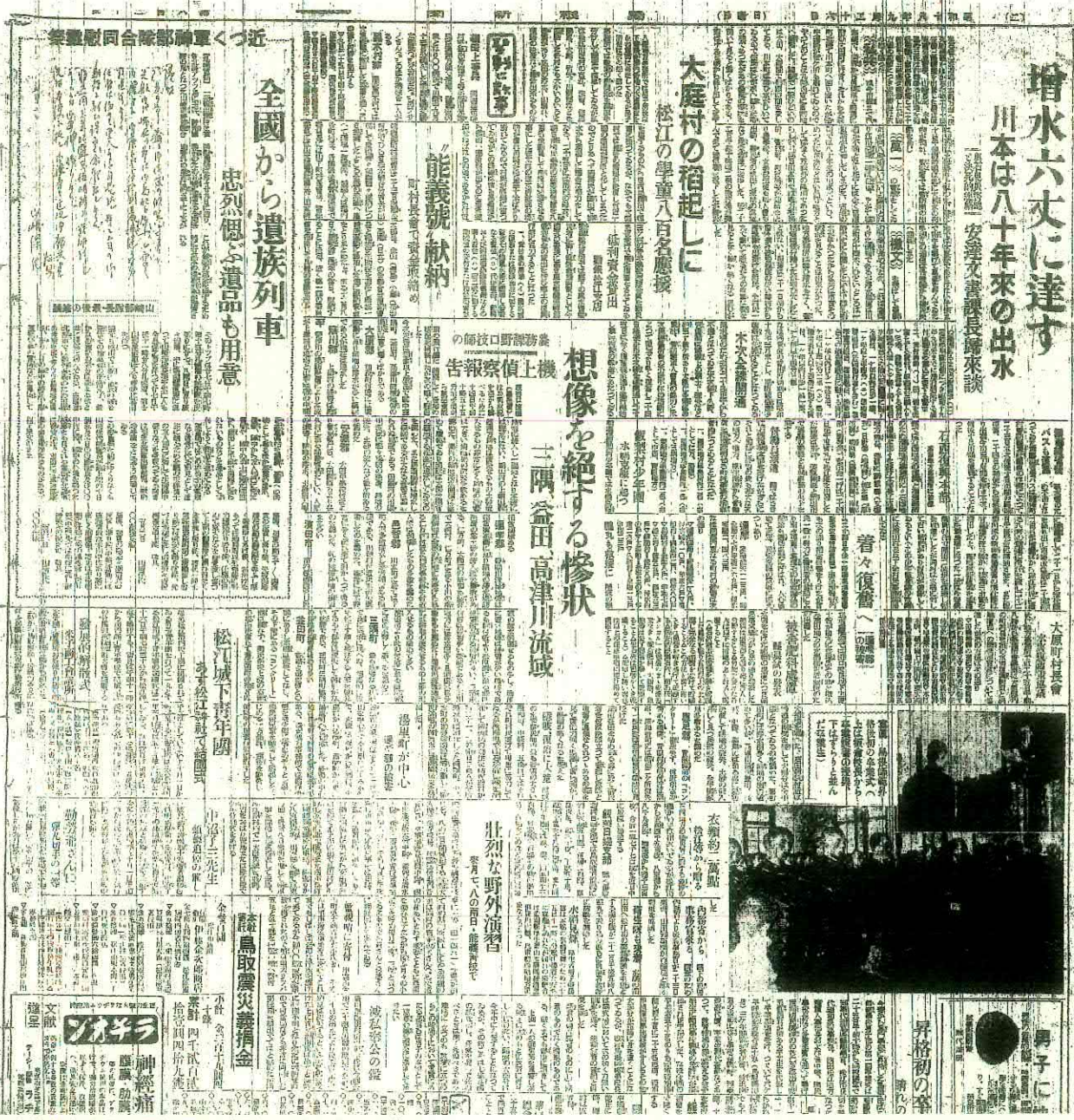
地上天気図 (昭和18年9月20日18時)



一般被害状況

人 (人)	死者	412
	負傷者	241
	計	653
家屋 (戸)	全壊	1,970
	半壊	3,523
	流失	2,246
	浸水	33,678
	計	41,417

出典：「しまねの砂防」



災害状況を伝える島根新聞（昭和18年9月26日）

■戦時中の大災害 昭和18年災害

昭和18年（1943）は、まさに戦局が激化した状態にあった。当時の水禍を伝える新聞にも戦時色が色濃く映し出されている。（当時の島根新聞より）

■山田武雄知事（当時）の訓示

「空襲を受けた気で、水禍の教訓生かせ。…
 県民諸君はこの災禍を敵機の来襲と心得てますます意気を高揚し、米英を撃滅する心で復興に邁進されたい」

■復興への意気込みを伝える記事

「“前線の兵隊さんはたとえ弾丸がなくても銃剣の先が折れるまで戦い抜くのだ。われわれも素裸で出直そう”と膝頭まで埋める泥水を超えて我が家へ帰り、隣組の活動も始まった」